

社長通信

No.24

会社は社員と社員の家族を幸せにすることが、社員はお客様を幸せにすることが使命であると私は考えています。
アストラックス株式会社
代表取締役 石川 均

霜月です(十一月)です。霜が降る頃であることから「霜月」と呼ばれるようになったそうです。確か去年も同じことをご案内したと思います。10月の下旬の土曜日に少し強めの雨が降りました。翌日、富士山を眺めると中腹まで真っ白な雪化粧でした。日中は暖くなる日もありますが、季節は冬に歩を進めています。11月7日は立冬です。残すところ1ヶ月と半月。あっという間に歳月は過ぎ去ってしまいます。その時々を大切にしたいものです。

個人的な話ですが、先月還暦を迎えました。振り返ればあっという間にこの歳となりました。少年老い易く学なり難しとはよく言ったもので、年齢だけ重ねて、学はちっとも向上していないことを実感しています。秋は読書の秋とも言われています。色々な人と会って情報交換すること、書籍を読んだり、タブレットやスマホの情報を見たり、色々な形で知識は吸収できます。私のように後悔しないように、今のうちから、知識の習得を進めることをお勧めします。

【会社の業況・行事について】

上半期の業績について

先月は売上高の目標を達成しましたということをお伝えしました。損益についても、目標を達成する事ができました。これも皆様のご努力の賜物と感謝する次第です。今年度は、荷動きが芳しくありません。冷蔵庫も満庫状態が続く有様でした。加えて、軽油の価格は前年度と比べて30円程度高くなりました。また、改善基準告示を遵守するため、運行はかなり制限を余儀なくされています。目標自体を前年度よりも引き下げたことはありますが、それでもこのような経営環境下、目標を達成できたことは素晴らしいことです。この状況を1年続けて頂き、年間の目標も達成できるように引き続き、ご尽力頂きたく存じます。

原油価格の上昇と軽油の高騰について

軽油の価格が前年と比較して平均で30円程度上昇しているとご案内しました。軽油の価格を左右する原油の価格はどんな理由で価格が上下するのでしょうか。簡単に解説します。

需給の改善にあります。

具体的には、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなどの非OPECの主要産油国が2016年末に合意した協調減産です。この協調減産の順守率は極めて高く、世界の原油生産の過半を占める国々が減産を守ったため、世界全体の原油の供給量の伸びが抑えられ、需要の伸びを下回りました。米のシェールオイルでは増産が進みましたが、その増産を十二分に吸収した形です。一方、世界経済が2016年を成長率の底として、2017年から回復に入ったことも重要です。このため、世界経済の回復に伴って原油の需要もしっかりしたものになりました。

米国のイラン核開発合意からの離脱です。

これによりイランよりの供給量が減少する事が懸念されています。南米のベネズエラでは、経済が崩壊状態に陥っており、原油生産量の減少が懸念されています。供給サイド側の能力に難があり、生産量の減少が懸念されています。サウジアラビアの問題も影を落としつつあります。

このような中、原油価格はどの程度まで上昇するかについて、原油価格が高くなりすぎると原油需要を冷やしてしまうこととなります。現在の70ドル近辺の原油価格は産油国・消費国ともに高すぎず低すぎの水準と捉えられているようです。米国のシェールオイルの急な生産増加につながる活動も見受けられませんが、高止まりの状況が続くと思われています。

[topix]